

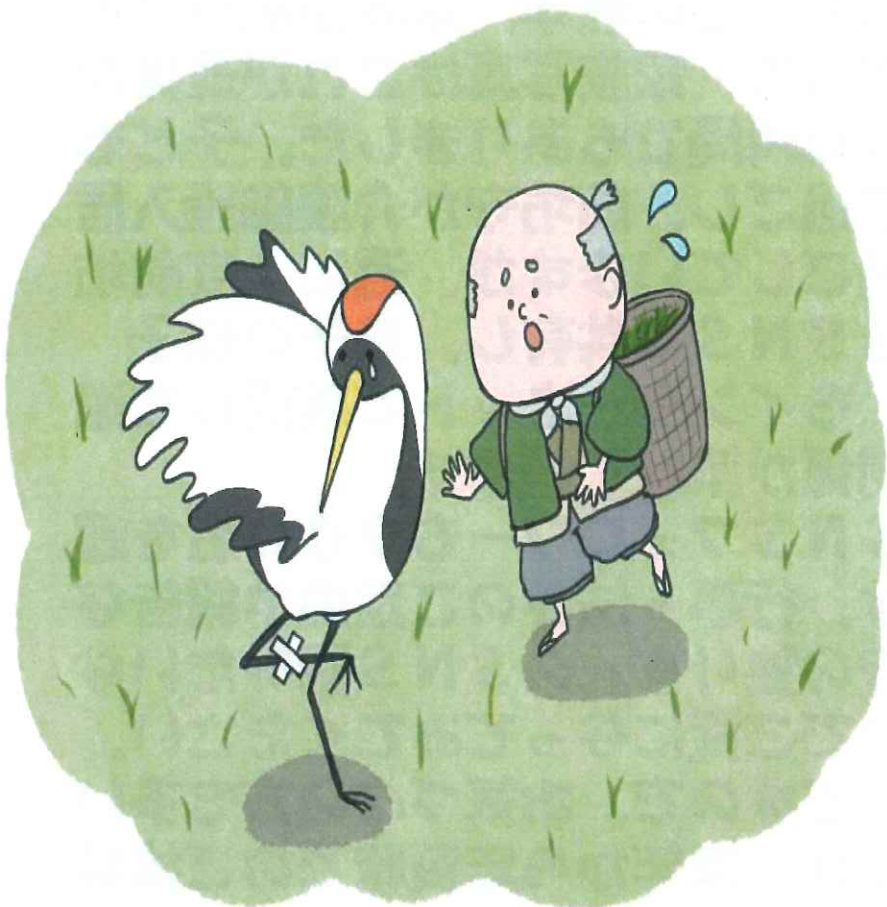


SENSHOJI
YUKARI NEWS LETTER
1994-2025

ゆかり通信
VOL.324
令和 7 年 1 月

北海道千歳市清水町1-14 鶴竈山 千正寺
TEL:0123-23-2442 FAX:0123-24-9883
ホームページ <http://sensho-ji.net/> フェイスブック @Senshoji

2025年千正寺カレンダー 1・2月の言葉 I



君はこの先何度も転ぶ
でもその度に立ち上がる強さも
君は持っているんだよ
(ドラえもん)

ご存知「ドラえもん」は、1969年から連載が始まり、今や藤子不二雄さんの代表作となりました。何をやっても駄目な少年のび太君の部屋の机の引き出しから、突然、未来からネコ型ロボット「ドラえもん」が現れます。のび太君は困ったことがあると、すぐドラえもんに泣く着いて、未来の道具を出してもらい問題を解決します。が最後は、やっぱり失敗で終わるというギャグ漫画です。

「失敗は成功のもの」とよく言います。何度もやってみては失敗し、反省したり欠点を改める経験を積む事によって、段々上手になって行きます。最初から上手に出来る人は居ませんし、失敗を恐れていては、何事も成功しません。ぼくの大好きな、相田みつをさんの詩をご紹介します。

■負ける練習

「柔道の基本は受け身 受け身とは投げ飛ばされる練習 人の前で叩きつけられる練習 人の前でころぶ練習 人の前で負ける練習です

つまり、人の前で失敗をしたり 恥をさらす練習です。自分のカッコの悪さを多くの人前でぶざまにさらけ出す練習、それが受け身です。長い人生にはカッコよく勝つことよりもぶざまに負けたり、だらしなく恥をさらすことのほうがはるかに多いからです。

そして負け方や受け身の ほんとうに身についた人間が人の世の悲しみや苦しみに耐えてひと（他人）の胸の痛みを 心の底から理解できるやさしく暖かい人間になれるんです。

そういう悲しみに耐えた 暖かいところの人間のことを観音さま、仏さま、と呼ぶんです」

失敗した時、辛い時…、ドラえもんの言葉を負ける練習だと思って、思い出してみても如何でしょうか。合掌

(本文：桜庭尚吾法務員)